



ベトナムの「チュックくん」 高校生になりました！

「チュック君の1日」。AEFAオリジナル教材（外務省グローバル教育コンクール2009 素材部門 優秀賞受賞）の主人公、ダン・ミン・チュック君。当時、小学校4年生だった彼が、どんな青年に成長したか、どんな生活をしているのかを知りたい・・・そんな願いがありました。

現地NGOのS C C（Saigon Children's Charity）の担当者と、9月21日（月）南部チャビン省ティウカン郡を訪問。彼の母校タンホアA小学校の前を通り、バナナ林の中のバイクがやっと通れるほどの細い1本道を進むと、チュック君とおばあちゃん、お母さん、妹のダン・ミン・トゥーチンさんの4人が待っていてくれました。

チュック君家族は、行政が貧困家庭に支援する家に住んでいます。正面と裏側の壁はセメント作りで、トタン屋根。両側の外壁はなく、椰子の葉やブルーシートで覆っています。内側の壁もないので、ボール紙を貼り合わせたものが間仕切り代わりにつり下げてありました。



妹を自転車に乗せて
小学校に通っていました

トイレは、家の裏手に掘られた堀の上に、板をわたり、竹とブルーシートで囲ったもの。日本の戦後間もない頃を彷彿とさせるたたずまいでした。

チュック君は今年5月に中学校を卒業、今は奨学金をもらいながら高校に通っています。妹のトゥーチンさんは、中学校1年生。水汲みや薪割りのお手伝いは、今は彼女の役割です。おばあちゃんとお母さんに見守られ、6年前とちっとも変わらない仲良し兄妹。「将来は、何になりたいですか？」という質問にも、兄妹ともに「中学校の歴史の先生になりたいです。」と、はにかんだ笑顔で話してくれました。

2人の成長を今後も見守っていききたいと思います。



お皿洗いのお手伝い
「チュック君の1日」より
(2007)

ひとこと

AEFAの深化と進化に向かって

AEFAの第11事業年度が終了する。数字上の成果は見え易い。確かに建設数212校、出前授業累計465回は大きい。

日本とラオスの国交樹立60周年記念の今年、ラオスの着工数は15校となり、これまでの着工総数で言えば累計66校である。今年度内の完成校は偶然にも「60校」となるのだから不思議なものだ。

ベトナムでの建設着校数も遂に140校、AEFA全体では着工総数219校となる。年度内の完成は212校であるが、心の底まで満足・納得できているだろうか。

私達が本当にやろうとしてきたことを果たす道は遠いと思っている。AEFAが目標としていること。それは村人の意識改革=自立心の養成と村の経済的自立。子供達の教育を通じた意識改革。教育の質の改善、保健衛生教

育、などである。根本に学校の安定した運営があることは言うまでもない。

AEFAは来年度、ラオスに2014年までに建設した51校における徹底したフォローアップ事業を展開する。生徒数や進学率などのデータの整備、教師の質の向上、教科書の配付、校舎の管理（メンテの要否の確認）、卒業して青年となった若者達との交流など、徹底したフォローをするつもりである。コストは相当に掛ろう。支援者を探すのは至難のことだが敢えて挑戦する。これこそがAEFA活動の「進化と深化」である。

AEFAが一番辛いことをやる。目立たないことをやる。1校も廃れさせない。10年間は見守る。それを先ずラオスで実行しよう。第二の創業のキーワードだ。深化と進化こそが・・・。

（理事長 谷川 洋）



熱血先生プロジェクト 先生たちのスタディツアー

ベトナム少数民族の村々へ

子供たちに会いに行く 心揺さぶる4日間



AEFAプロジェクトの特徴である、アジアと日本の子供たちの交流。アジアの将来を担い、未来を拓くことのできる児童・生徒の育成に取り組む先生方によるベトナム・スタディツアーを実施しました。

「フレンドシップ交流」と「アジアのことを知る出前授業」を通して出会った東京都内の若手の先生6人、神奈川県私立校・鎌倉学園の先生2人、静岡県袋井市の先生2人、福井県坂井市の先生1人の合計11名が、9月19日（土）から23日（水）まで、ベトナム南部ホーチミンから南西に200kmのチャビン省ティウカン郡と、中部クアンナム省の学校を訪問。ベトナムの学校現場の訪問・視察・交流だけではなく、事前の取り組みや帰国後の授業を行い、その実践を12月の「AEFAフォーラム」で発表します。参加された先生方は日々の多忙な教育活動の傍ら、ベトナムの子供たちのことを思って、3ヶ月にわたって連絡を取り合い、準備を進めました。

日本の子供たちの輝く瞳を求める、情熱のある実践を支援したい。先生方が「まずは自分自身で体験し・感じる」ことから、AEFAならではの主体的な国際理解教育のお手伝いができればと願っています。



初めてのことばかり！
楽しかった～♪



日本の先生、
また来てね！



AEFAの建設校 タンホアA小学校紹介！

タンホアA小学校は、南部メコンデルタにあり、クメール族の子どもたちが学びます。

耕地が少ないため、日雇い労働や出稼ぎで生計を立てる家庭も多く、親の仕事についていくために学校をドロップアウトしてしまう子供も多くいました。

2008年度建設校で、度々日本からの支援者が訪問。プレイグランドの整備や、交流活動を行っています。



初めてのミニ運動会どうでしたか？

タンホアA小学校で、ミニ運動会を開催（右頁参照）子供たちの感想は・・・

- 1年生男子「玉入れをしたのは、初めてでした。楽しかったです。」
- 2年生女子「しっぽ取りがおもしろかったです。でも、みんなで長縄をとんだことが一番楽しかったです。」
- 3年生女子「日本の先生方と、タンホアAの先生が二人三脚で競争したとき、みんなの応援の声が大きかったので驚きました。」
- 4年生男子「ぼくが一番楽しかったのは、長縄跳びです。みんなで一本の縄を跳ぶのが難しかったけど、それが面白かった。」
- 5年生男子「これからも、こういうスポーツをみんなでやれたらいいと思いました。とっても楽しいゲームばかりでした。」

日本の運動会を輸出！

初めてのスポーツに大興奮！

ベトナムには、日本のような「運動会」はありません。チームに分かれて、団体の種目を一致団結して楽しむのは、日本ならではの。そこで、今回日本の先生方が「袋跳び」「2人3脚」「紅白玉入れ」「綱引き」「しっぽ取り」「長縄跳び」の6種目を準備・実施しました。ベトナムの子どもたちにとって初めての競技が多い中で、もっとも人気だったのが、長縄跳びでした。

校庭には、応援の大歓声にあふれ、出場した子供たちはロ々に「『セーノ』で始める長縄跳びが一番楽しかった！！」と元気に話していました。



みんながんばれ～！

運動会
すごく楽し
かった！



交流では、日本の先生方が3つのグループに分かれて、3つの学級を順に訪問して実施しました。剣玉や積み木ならぬ「積み缶」で交流する班、日本の学校生活の様子を学ぶ班、手作りの乾電池を作ってみる班など、工夫が凝らされた、楽しく興味を引く活動ばかりでした。その中でも、乾電池を手作りし、底の部分を水に浸すと、ライトが光り出す実験には、「光った、光った。」と驚きの声を挙げていました。



大好きな縄跳びが
できるようになっ
たよ～！

ご支援ありがとうございました！

今回のスタディツアーには、日本の企業や子どもたちからの多くの支援品をお預かりしました。ご協力に心より感謝申し上げます。

- ・スポーツウェア多数、スポーツシューズ多数、サッカーボール2個
(ホシノドリームズプロジェクト様)
- ・鉛筆4300本と鉛筆削り240個
(太陽鉛筆株式会社様、
有限会社スラムット様)
- ・剣玉100個、跳び縄20本
(タミワ玩具株式会社様)
- ・文房具多数 (福井県河和田小学校様)
- ・お手玉100個 (港区立筭小学校様)

参加された先生の声

「AEFAからの宿題で、渡航前に4年生にベトナムに関する授業をしたことが大きかったです。子どもがすごく意欲的になって、ベトナムの友達のために、一生懸命考えて作品作りをしてくれて。その結果をまた直接伝えられるっていうことが本当に大きい。やっぱり子どもは、『自分たちが頑張ったものの結果が返ってくる。』っていうことは本当に大きいと思います。」
「ベトナムの子供は、毎日勉強を楽しみにしている。発展していく国のエネルギーを実感しました。そういう国と、日本の学校が関われるというのはすごく大切なこと。単にお金を集めて支援するのではなく、物の価値や心の交流という部分をもっと積極的にやって行かなければいけないなと思いました。」

「今回の経験を通して一番の収穫は、これから日本に帰って、一緒に働いてる先生たちと共に、一生懸命子供たちを教えていこうという前向きな気持ちになったことかもしれません。」





～スタッフの出張日記～ ベトナムの建設候補校視察にいつてきました！

「絶景の中の小学校」

ベトナム・タイグエン省バンテン小学校

ベトナム北部山岳地帯のバンテン小学校へは、ハノイから約6時間、工事中のでこぼこ道を超えてゆきます。四輪駆動車で橋の架かっていない小川を渡渉したり、途中からは車が入れず、バイクに乗り換え、一歩間違えば崖下へ真っ逆さま・・・の山道を走りました。

山奥の道なき道をゆくには、怖がっては行けません。ひたすら前方と周囲に広がる山の絶景を見ながら進みます。小さな村を通り辿り着いたのは、青々とした山の畑に囲まれ、広い校庭のあるバンテン小学校でした。小さな木造の教室が3棟、幼稚園兼集会室が1棟。ハ一校長先生と先生たちが、特産の緑茶を用意して出迎えてくれました。

周りには、3km先に本校、そして2km先には小さな分校があります。こうした山岳地帯は雨季になると土砂崩れが多く、通えなくなる子どもたちも少なくありません。先生方は、そんな子どもたちを思っけるべく多くの子どもが学校に通うことができるように、近隣村の保護者とも協力して、話し合いを続けてきました。

「どうかして学校を新しくして、いつかは寮も作りたい。子どもたちには、しっかり勉強をしてほしい」という先生方の意気込みが、感じられました。



本当に足元の悪い道無き道を、歩いて進む。

バンテン小学校に向かう途中の景色

「村人たちの 大事な学校」

トゥエンクアン省 バンホー小学校

バンホー小学校は、バンホー村の中心にあります。少数民族タイ族の子どもたちが学んでいます。とても小さな村で、雑貨店が1軒あるだけ。村人は農作物を育ててほぼ自給自足の生活を送っています。学校は、台風や嵐のたびに先生や親たちが修復しているそうで、天井や壁はツギハギだらけでした。「どんなに古く崩れそうな学校でも、学ぼうとする気持ちがあれば続けられる。」そんな想いが伝わってくる様でした。小さな学校ですが、先生方が笑顔で出迎えてくれた時、村人と子どもたちに愛されている大事な学び舎なのだと確信しました。



太鼓は、始業と終業の合図や、体育の時間に使います。



現場で頑張る スタッフ紹介！

～Research and Communication Centre for Sustainable Development -(CSD)所属～

グエン・ディエム・アインさん

(紹介：スタッフY)



バンテン小学校など、北部各地の現地行政などと連絡を取ったり、村の人々との話し合いなどを進めてくれているアインさん。2児の母でもあり日々子育て奮闘中ですが、ベトナム僻村の子どもたちのためAEFAと同じ志を持って活動しています。アインさんのメールは誰よりも早く、AEFAスタッフの質問にも迅速に答えてくれます。いつも一生懸命なアインさんを、私たちも応援したくなってしまう。これからは共に頑張ります！





A E F A奨学金プロジェクト

支えてくれる人がいるから、もっとがんばれる！

A E F Aの奨学生プロジェクトを受けているベトナムの学生たちの様子をスタッフが視察に行ってきました！様々な家庭問題を抱えている生徒たち約30名の支援を続けています。

今年も9月より新学期が始まり、進級した生徒たちは笑顔で今好きなことや楽しいこと、頑張っていることなどをお話してくれました。毎日元気いっぱい、お友達と走り回ったり、おしゃべりしたり。毎日の生活は大変だけど、応援してくれてる誰かがいると思うともっとがんばれる！そんな風に過ごしていました。

大好きな授業があります！

お母さんは、僕とお姉さんを学校に通わせようと一生懸命働いてくれています。僕も家の手伝いを一生懸命しています。僕は、学校が大好きです。特に音楽の授業が大好きです。将来はエンジニアになりたいです。



もっとがんばりたい！

私は、時間があるときは、お母さんのお店の仕事を手伝っています。二人の妹の面倒を見ながら、家の手伝いも一生懸命やっています。学校の勉強が大好きです。これからのお母さんの仕事を手伝って、妹たちが学校へ行けるように働きます。



キム ビン タンくん (小学5年生、男子)

タンは、母親と姉の3人家族で、地方自治体の支援で建てられた家で暮らしています。お父さんはおらず、他からの支援もありません。母親は腎臓に疾患があり、日雇い労働者として働いていますが、仕事が不安定で、日当3.5US\$程度で生活しています。

家族には、負債もあり、日々の生活は貧しく、とても厳しい状態です。



キム タオ ニーさん (小学5年生、女子)

ニーは、二人の兄弟と母親の4人で、慈善団体によって建てられた家に住んでいます。父親は2年前に刑が確定し、刑務所にさらに11年間の服役が必要です。

母親は、小さな装飾品店を営み、一日に平均0.46US\$ほどを稼いでいるが不安定です。母親が精一杯働いていても、460US\$の借金があり、たいへん貧しく、生活は厳しい状況です。

日本との交流スペースに 展示しています！



作品 紹介

大人気の交流作品！ページをめくると・・・？

港区立筈小学校の4年生が作ってくれた作品。習字で書かれた文字をめくると、その文字の意味を表す絵が出てきます。日本語が分からないベトナムの子供たちも、これには大喜び！いろんな日本語の文字と絵を、何度もめくって見比べていました。

「言葉が通じなくても、相手に伝わる」異文化交流が楽しめる、素晴らしいアイデア作品です。



～スタッフの出張日記～

ラオスの村で教えてもらった、心の持ち方



異なる少数民族の村々が、1つの地域を構成するラオス南部のファイラ・エリア。

サラワン郡副教育局長のスリヴァン氏と一緒に、この地域を最初に訪問したのは、3年前の秋でした。

当時、村人が作った掘立小屋のような小学校があるだけで、教員はもちろん教科書など教材も不足。最寄りの中学校は15km離れており、ごく限られた家庭の子供しか通うことができず、小学校を修了できればいいほう・・・という教育環境が取り残された僻地でした。その日の最後の訪問地として、午後遅い時間に四輪駆動車で向かったのですが、悪路が続き、疲れた表情を浮かべたスタッフに

「最初に通る道は、いつでも遠く感じるもの。それはどうしてかっていうと、

木の一本一本が、“どこへいくの？”って話しかけてくるからだよ」とスリヴァン氏。

ラオスの人の心には、詩情があふれていることに驚きました。時短や効率ばかり求めるのではなく、辿る道の過程を楽しむ心の豊かさを感じ、悪路も少し楽に感じられました。

ようやくたどり着いた村で、大きな夕陽の光を浴びながら学校を視察。そのあとは真っ暗になるまで、村のお母さんのご飯を頂きながら、地域の各村長さんたちと話し合ったり聞き取りを行いました。

「村の子供達は、小学校を出たら出稼ぎに出て行って、帰ってこない。」

「この村の次の世代をつくってゆく人がいない。」「人材をつくるのは、教育しかない。」

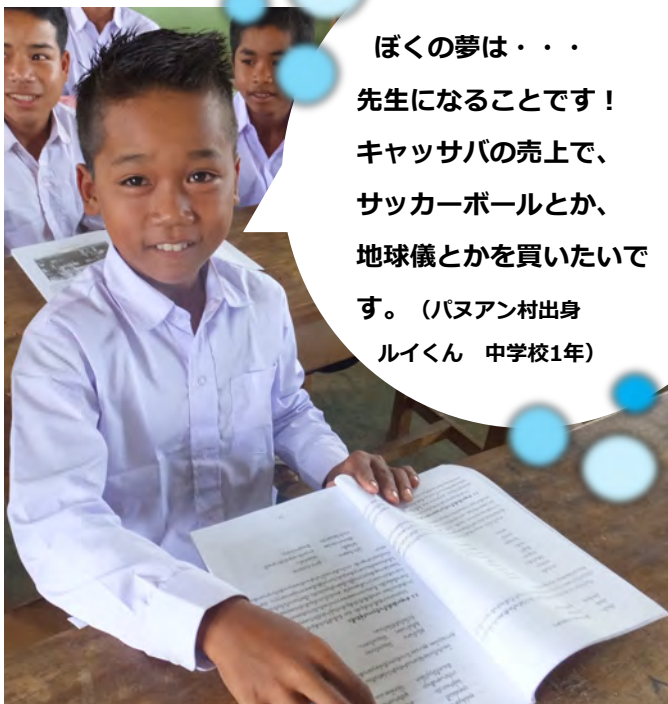
こういった村人たちの熱い期待に応え、2015年3月に地域初の中学校が新設され、9月に小学校が開校しました。



村長らと話し合うスリヴァン氏（中央）



ファイラ小学校（地域の基幹校）



ぼくの夢は・・・
先生になることです！
キャッサバの売上で、
サッカーボールとか、
地球儀とかを買いたいで
す。（バヌアン村出身
ルイくん 中学校1年）

今年3月、中学校の校庭に木の枝のようなものが何本も置いてありました。聞けばキャッサバの根だそうで、先生と生徒で校庭に植える・・・とのことでした。

半年後。ファイラ中学校の校庭は、見違えるような緑の畑！キャッサバ芋は地中に植えれば簡単に発根するそうですが、それにしてもすごい生命力！ここ5年ほどの間に、ラオスにはキャッサバのプランテーションが増えています。12月には収穫して工場に売り、その売上げで不足した教材などを購入することができます！



学校にキャッサバ畑？！

私たちの寮生活を紹介します！

「みんなと一緒にの寮生活。勉強できるって嬉しい！」



中学校が遠い・道路が悪いために通えない・・・などの理由で、学校の寮で生活しながら学ぶ生徒が多くいます。サラワン県ラオガム郡ナボーン中学校には、生徒の出身村ごとに保護者が手作りした高床式の寮が並びます。生徒たちは菜園で野菜を育てたり、夜の森にかえるを獲りに行ったり、自給自足の生活で学んでいます。

オラタイさん 15歳 中学3年生

この寮は、お父さんたちが協力して作ってくれました。村には中学校がないので、ナボーン中学校で勉強を続けることができますのは、とってもうれしいです。

寮でご飯を作るのは、いとこたちといっしょに準備しています。どうしてかというと、親戚同士なのでお米や野菜の融通がきくし、分け合うことができるからです。

週末、家に戻った際、両親からおこづかいを20,000KIP（約300円）もらいます。お昼に焼き鳥を買ったりするのに使います。制服や文房具や、新年度に買ってもらっています。

寮は、人がいっぱいいるので、宿題している時に騒ぐ人がいると集中できないから大変です。でも、保管しているお米や食器がなくなってしまう・・・などの問題は、ありません。



サラワン県ラオガム郡ナボーン中学校寮

オラタイさんの1日

「毎朝4時に起きて、井戸に水を汲みにいきます。それから、顔を洗ったり歯を磨いたりして、朝ご飯のもち米を蒸します。朝食は、もち米と野菜とジェオ（唐辛子みそ）を食べることが多いです。

7時半、登校。11時半に午前中の授業が終わるので、寮に戻り、朝炊いたお米と、行商にくる屋台から焼き鳥をみんなで買って、分け合って食べます。それから水浴びをして、学校に戻ります。

16時半、授業終了。校庭でバレーボールをしたり、菜園の世話、夕食の準備をします。水浴びをして、夕飯を食べ、宿題をして9時には就寝します。」



眠るのも勉強も食事も、1つのスペースです。

共同キッチン



in ベッドルーム



波打つ撓んだ寝台。
板にそのまま寝るのは
身体が痛くなりそう・・・



山の学校の寮は・・・

山岳地帯は耕地も少なく貧困度が高いので、生活が厳しい家庭が多く、中学まで通える生徒は多くありません。家からお米を持ってくるができなくても、外部団体からの食糧支援を受けたり、学校菜園で自給自足の寮生活を送っています。ござや毛布を持っていない子供も多く、友人同士わけあって眠ります。寮も古くなり、壁や寝台代わりの板にとこところ穴があいてしまい修理が必要です。



私たちの寮です！
遊びに来てね♪



雨季のラオス南部をゆく！



今年の雨季は、8月半ばまでほとんど雨が降らず、9月になって大雨が続きました。数年前までは、ラオス南部第2の都市・パクセーを出て少し行けばもう舗装道路はなく、雨季は舟でメコン川を移動するしかない状況でした。世界遺産ワットプーまでの道が舗装され、少しずつ、赤土のすべりやすい道が改善されています。

しかし、幹線道路を少し外れればそこはまだ昔ながらの農村地帯が広がります。水田が道より高く作ってあるので、田んぼからあふれだした水が道路を川にし、行く手を阻みます。真っ暗になった道端では、ヘッドライトをつけたおじさんが魚を捕まえていて、ここは道なのか川なのか、いよいよわからない状態に！

9月初旬の訪問時、子供たちが学ぶ現校舎の隣で、新校舎建設工事が進む「チャンパサック県ファイナ小学校」。風が吹き込む雨や、穴の開いたトタン屋根からの雨漏りを避けるように机を寄せて勉強しています。外から流れ込んだ雨水で、地面のままの床はどろどろ。雨風が強い日には、休校日が続きます。

子供たちにとっては、1日も早く、新しい校舎で勉強できることが楽しみです。

パスム小学校の児童たち



渡し船のフェリーで川を越えて

サラワン県コンセドン郡パスム村に着くと、村の入口で子供たちが列を作って待っていました。小学校は村の一番奥、大きな木々に囲まれてぽっかりと開けた場所に建っています。

教室不足を補うために、小さな板でいくつにも仕切りを作って教室を分け、工夫して授業を行っています。

塩ビ管を輪切りにして、数を数えるための算数の教材を作ったり、教室の片隅にトタンで作った図書コーナーがあったりと、「モノが無いは無いに」工夫して学校活動を行っています。

4・5年生は、隣にあるお寺の床下で授業を受けています。



空き缶でつくったモビール

塩ビ管で手作り教材



算数脳パズルに初挑戦！

この学校で、日本からの支援者が「算数脳パズル」を実施。これは、数字の問題を解くことで、「考える力」「生きる力」を養う脳のトレーニングです。脳を活性化し、柔軟性のある「考える」頭脳を作ります。

まずは、先生方がパズルに挑戦。初めての経験、理解するのに戸惑い、正解がなかなか見つからずに手こずる様子もありましたが、新しい刺激に瞳が輝き、「もっとやりたいです！」と笑顔。学校建設支援だけでなく、教材も支援を継続していきます。





故郷の村で
子どもたちに
勉強を教えて
今ある可能性を
未来につなげたい



サラワン県教員養成短期大学

サヴァン先生は、サラワン県パチュドン村生まれパチュドン育ち。家庭の事情で、6歳から10歳まで牛の世話や炊事・洗濯などで家族のために働き、11歳の時に小学校に入学します。成績優秀・・・とはいえなくても、持ち前の粘りと「がんばり」でコツコツと励んできました。



AEFAスタッフが、サヴァン君に初めて会ったのは9年前。夏休みでも学校菜園の手入れを手伝ってくれる生徒がいる・・・と紹介されました。四角いお弁当箱みたいな顔に、にこにこと優しい笑顔が印象的な少年でした。小学校入学は遅れたものの、無事パチュドン中学校を卒業。同級生6人と共に、サラワン県教員養成短大に、AEFA奨学生として入学。夏休みには道路工事などのバイトをして、家計を助けていたそうです。

2014年、教員課程を修了、晴れて故郷タオイ郡のパトゥム小学校に新任教員として赴任しました。同校は、パチュドンから約30km、幹線道路を離れてくねくねとした山道をゆきます。電気も水道もない山奥の学校ですが、サヴァン君にとっては、街の生活よりもほっとできる環境だったそうです。とはいえ、バイクや自転車を持っていないので、「週末のたびに徒歩で家と学校を往復するのは大変だった・・・」と笑って話してくれました。そして2015年の新年度から、母校であるパチュドン小学校に着任。

「日本のみなさんの支援のおかげで、パチュドン校はできて、ぼくはここでずっと勉強することができました。そして、ぼくはこれからずっと、自分の村の子供たちに勉強を教えていきます。」

パチュドン中学生時代のサヴァン君（右）ブンリッ君（左）も先生になりました



パチュドン村の様子



パチュドン小で子供たちに教えるサヴァン先生



世界の中の日本、ラオス、ベトナムってどんな国？

— A E F A 出前授業で伝える 生きる大切さ —



A E F Aでは毎年7月、福井県で出前授業を行っています。福井県各地で沢山の方々にご協力いただき、日本とアジアの交流のお手伝いをする事ができました。

A E F Aスタッフならではの現場感、現地でのエピソード、物が少ない中での森の生活、水の大切さや勉強することの重要性を自分たちの生活と比較しながら実施しました。子どもたちにとって、ラオスやベトナムの写真を見るのはほとんど初めて。自分と同じくらいの子どもたちが異なった世界にいて、日本は恵まれた国にいてということを自覚できるように行いました。

ワークショップ/世界がもし100人の村だったら

「世界がもし100人の村だったら」を題材に、世界の貧困の現状を、お菓子の量（食料）とグループ分けした児童の数（国の数）とで比較。「自分のグループには世界のどの国が所属するのか、どうしてグループ毎にお菓子の量に違いがあるのか」を考えて発表してもらいました。日本は先進国で、当たり前前に学校に通うことができ、病院も近くにあるが、世界にはそうでない国のほうが多い・・・ということを知った子供たち。真剣な眼差しで「隣の国のお友達を助けたい」「食べる物がなければ、自分のを分けてあげる」と発言していました。A E F Aの出前授業では、日本では想像できないアジア山岳地帯の生活を知る事で自分を振り返り、まずは周りに感謝の心を持てるようになってほしいと願い、実施しています。



授業のひとコマ



ねずみとトカゲ
だよ！買って
かない？



平章小学校より作品をお預かりしました！



「県民福井」7月2日号 掲載

A E F A 出前授業日程 (2015年4月～10月)

5月	さいたま市立植水小学校	
	町田市立小山田小学校	(他1校)
6月	大阪府枚方市立樟葉北小学校	(2コマ+教職員)
	静岡県袋井市立高南小学校	(他3校)
7月	福井県坂井市立平章小学校	(他11校)
	葛飾区立東金町小学校	
9月	大田区立安方中学校	(他8校)
	福島県田村市立美山小学校	(他1校)
10月	三重県津市立高野尾小学校	
	北鎌倉市・鎌倉学園中・高等学校	
	港区立高輪台小学校	(他17校)



家の前で
脱穀作業中！

学校行く時も遊ぶ時も
いつも弟と一緒になの。



AEFAの大きな特徴は、アジアの子供たちの生活を日本の子供たちに紹介する出前授業などの交流事業（対話）を行っている点です。ベトナムやタイなどのアジアの都市部は急速に発展していますが、地方ではまだまだ貧しく厳しい生活を送っています。しかし、日本の現状と比較し、物やお金は少なくても家族で支え合い、学ぶ喜びに満ちた子供たちの姿があるのも事実です。この交流事業は、豊かさの中の「貧困」を抱える日本の子供たちにとっても命の尊さ・生き抜く力の大切さを学び、人のために役立つ人間を育てることのきわめて重要な教育の場となります。

かつて、カンボジアで地雷の除去をしていた日本のあるNGOが、ある村で物の売り買いに便利な市場に通ずる道の地雷除去をしようとしたとき、村人たちから「その道より、まず、お寺に通ずる道の地雷を取って欲しい」という言葉を聞き、唖然としたという話があります。そのNGOの方々は、善かれと思ってやっていることが、地元の人々の暮らしや文化を理解せずに、経済活動を優先することしか考えていなかったことへの深い気づきと反省があったと言います。

魚のメタファーを使うならば、わたくしは、「何よりもまず魚（資源）を分かち合い、対話し、そしてその土地に合った魚を取る術（資源を生かす方法）を共に開発してゆく」ことだと考えております。AEFAは、現地の方々と対話しながら、インドシナ半島に200校を越える学校「箱」を創るだけ

ではなく、現地の厳しい環境の中でも、その「箱」に魂を注ぎ、子供たちを育てるために、工夫して知恵を出し合い、民族の誇りをもって教育活動を行っている先生方と対話を重ねてきました。

来年度には、同じアジアで生きる教員同士として、さらに深い対話を通じて共に学び合い高め合い、今後のアジアの持続可能な教育を考える「ラオス少数民族学校における学びの質の向上と、国際理解のための研修会・交流会」を行おうとしています。わたくしは、日本国際理解教育学会の理事をしており、専門とするホリスティック教育及び持続可能な開発のための教育（ESD）の視点から見ても、大変興味深く、高く評価しています。



プロジェクトがさらに充実！ 新たな連携のかたち

W ANG基金（Wisdom of Asia for Next Generation）
「学校という奇跡」を輸出し「希望」を増産しよう！

藤原和博先生が代表を務める、アジアに希望の学校をつくるプロジェクト。学校建設だけでなく、教員研修等で質の向上も支援し、次の世代をつくる人材を育成します。第1校目として、パチュドンに高等学校を新規開設すべく、校舎を支援。建設が進んでいます。

2016年春には、学校プロジェクトを通して村に奇跡を起こす「ファウンダー」の皆様が、現地を訪問します。



建設が進むパチュドン高等学校

株 式会社キャリアリンク

「学校と企業をつなぎ、教科書だけでは実現できない実社会に結びついたキャリア教育をサポート」する同社。次世代育成に真摯に取り組む企業と協働して、学校現場の支援および企業の「教育CSR」活動への理解を深める活動を行っています。

AEFAの「アジアのことを知る出前授業」も、「学び合い、支え合うアジアの未来のための国際理解プログラム～グローバル・チャレンジ・プロジェクト」として始動。日本と世界のつながりを知り、「自分に何が出来るかを考える」「行動に移すことのできる」人になってほしい・・・

1人でも多くの子供たちに、伝えていきたいと思えます。会報誌「Future Forecast」（全国約1,800の教育委員会のうち、1,000以上の教育委員会で活用されています）第10号より、AEFAプログラムが掲載・紹介されています。



◆ AEFA往来 2015.4~2015.9 ◆

4月 ●山川 香 入職(6日)
6月 ●理事会(11日)
●新潟県十日町市立田沢小学校出前授業(30日)
7月 ●福井県出前授業(1-3日)
●京都市出前授業(6-8日)
●FOOD & DRINK of LAOS(25日)
8月 ●事務所移転(5日)
●HP改訂(5日)

8月 ●会員の集い(8日)
●ベトナム出張(23-31日)
●ベトナム・クアンナム省レロイ2小学校開校式(27日)
●ベトナム・クアンナム省トロンディンナム小学校開校式(28日)
●ベトナム・クアンナム省ティエンヒェップ小学校開校式(29日)
9月 ●ラオス出張(1-7日)
●理事会(11日)
●熱血先生プロジェクト
ベトナム・スタディツアー(19-23日)



7月25日(土)
FOOD & DRINK of LAOS!
ご参加&ご協力、
ありがとうございました!

ラオス料理を味わい、ラオスについて知り、「学校を作ろうプロジェクト」に協力するイベント。ご来場いただいた皆さまと、和気藹々と大盛況のうちに開催することができました! また、食を通じたイベントを開催できたと思います。随時ご案内しますので、皆さまでご参加下さい!



コープチャイライライ!

**学校のかぼんと小さな
黒板大事にしています!**

京都のタイキッチン「パクチー」さまが開校式で贈られた学校かぼんとミニ黒板! 9月、スタッフが再訪問すると、大切に



大切に使ってます!

スタッフがカメラを向けると、「これこれ〜!」と嬉しそうに抱えて見せてくれます。子どもたちにとって、“自分だけ”のものは何よりも大切なもの。これからもしっかりと勉強してね! と声をかけてきました!



**初めての靴は、弟にはかせたい!
うれしい日本からの贈り物**

サラワン県タオイ郡パチュタイ村に、かんき出版のみなさまが現地に船便で送ってくれた服や靴、おもちゃを届けました! 本校のパチュドン小学校へ通うには、川の渡渉があり小さい子は危険なので、村の分校で学んでいます。パチュタイ村はちいさな貧村で、学校でも服を着ていない・靴も履いていない子が多くいます。日本から届いた、靴のプレゼント。自分も履いたことはないけれど、弟に小さな靴をはかせようとしている兄弟の姿がありました。自分ではなく、誰かに。その想いは、支援してくださった皆さまから子どもたちにも届いています。



事務所移転いたしました!



8月5日に、下記に事務所を移転致しました。
靖国神社(九段坂上の交差点)至近で、桜並木が見晴らせる
オフィスです。お近くにお越しの際は、お立ち寄りください。今
後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



<HP更新しました>

今年も、株式会社
ホームページさまのご
協力で、建設事業や年
度報告など、内容を更
新いたしました。

認定NPO法人 アジア教育友好協会 AEFA (アエファ)

Asian Education and Friendship Association

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-22 九段中島ビル3F

TEL 03-6265-6490 FAX 03-6265-6491 Email: asia@nippon-aeffa.org

URL: <http://www.nippon-aeffa.org>

